

稲生川を開削した先人の魂がいきづく 十和田市立新渡戸記念館



十和田市立新渡戸記念館では、人工河川・稲生川の開削にはじまる三本木原開拓に尽力した新渡戸三代や、国際親善に大きな足跡を残した新渡戸稲造の業績などについて知ることができます。



三本木原開拓の祖
新渡戸傳



基盤目状の
都市計画を行った
新渡戸十次郎



安積疏水・那須用水にも
かかわった土木技術者
新渡戸七郎

三本木原開拓にすべてをかけた新渡戸三代

広大な原野・三本木原に稲生川を開削し、田畑を開くとともに、都市計画、産業開発などを行ったのが、南部盛岡藩士・新渡戸傳と息子・十次郎、孫・七郎です。三本木原総合開発ともいべきこの開拓によって、現在人口6万8千人の十和田市の基礎がつけられました。

一階三本木原開拓コーナーには絵図面や工具などの開拓資料を展示しています。



慶応元年(1865年)の検地絵図
十次郎の都市計画の詳細がわかる



三本木原開拓で使われた工事道具



三本木平開発留
安政2年~明治5年(1855年~1872年)
開拓事務所(会所)で書いていた日誌

開拓精神を受け継いだ国際人

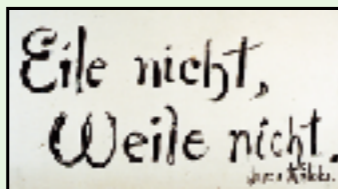
新渡戸傳の孫・新渡戸稲造は明治から昭和初期に教育者として、国際人として活躍しました。大正8年(1919年)には国際連盟事務局次長となり国際平和に尽力し、その功績から五千円札の肖像となりました。記念館二階には稲造直筆の書などを展示しています。



日本で最初の
農学・法学博士
新渡戸稲造



昭和59年に発券された
五千円札のもとになった
写真



ドイツ語の書
「いそぐことなかれとまどうことなかれ」



著書「武士道」

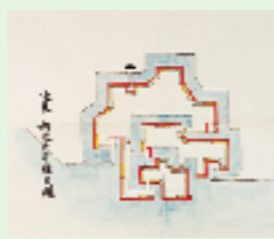


稲造愛用の
ステッキ・パナマ帽

武将・新渡戸氏の歴史

記念館一階武将コーナーには、室町時代末期の明珍勝正作・錆色塗六十二間筋兜を始め、新渡戸家に代々伝わる甲冑を展示しています。南部盛岡藩の上杉流兵法学者・新渡戸維民(傳の父)の兵法資料とあわせてご覧下さい。

新渡戸家伝来の甲冑(室町末)
兜・明珍勝正 鎧・明珍信家



上杉流兵法による城郭の図



要門の兵法書



稲生川は 「疏水百選」に 認定されました

農林水産省では、日本の美しく豊かな“水・土・里”を育て維持していくことが重要と考え、特に農業のための用水をテーマとして、平成18年2月、全国の用水から「疏水百選」を選びました。

応募総数499カ所の用水からしほりこまれた284カ所の候補について、インターネットとファックス・はがきによる一般投票、有識者からなる選定委員会の審査が行われ、全国110カ所の用水が認定されています。

稲生川用水は一般投票(投票総数22万6千件)で9,806票を獲得し、投票ランキング堂々1位で「疏水百選」の認定を受けました。



稲生川ふれあい公園
(十和田市三本木字本金崎)

太素顕彰会 十和田市立新渡戸記念館

<ご利用案内>

開館時間▶9:00~16:00
休館日▶毎週月曜日(祝日は開館)
年末年始(12/29~1/3)
入館料金▶大学生・一般210円(団体178円)
小・中・高校生52円(団体 42円)
※団体は20名以上

<お問い合わせ先>

〒034-0031 青森県十和田市東三番町24番1号
十和田市立新渡戸記念館 TEL・Fax 0176-23-4430
nitobemm@hi-net.ne.jp
<http://www.towada.or.jp/nitobe/>

NITOBE
MEMORIAL
MUSEUM

十和田市立新渡戸記念館

稲生川ガイドマップ

農林水産省認定
「疏水百選」稲生川用水